

世界史 B

1 次の A ～ F はいずれも歴史上活躍した遊牧民について書かれた文章である。文章を読み、下の設問に答えよ。

A 5世紀から6世紀にかけて中央アジアで活躍した遊牧民で、ササン朝に侵入してこれを苦しめた。しかし6世紀半ばに（ 1 ）治世下のササン朝と下記Cの遊牧民との挟撃にあつて滅亡した。

B ユーラシア大陸中央部に展開していた遊牧民で、4世紀に、西に向かって移動を開始した。このことが引き金となってゲルマン人が大移動をはじめた。5世紀半ばに最盛期を迎えたが、その後王国は分裂を重ねて弱体化した。

C 6世紀から8世紀にかけて、モンゴル高原および中央アジアを支配したトルコ系遊牧民で、とりわけ6世紀半ばに強大となり、柔然^{じゅうぜん}を滅ぼし、華北の諸国を服属させた。ソグド人を用いて交易や外交をすすめたり、独自の文字をつくったり、ビザンツ帝国と関係を結んだりしたが、隋によって内紛に乘じられて東西に分裂した。

D 5世紀末に柔然から自立した後に、モンゴル高原西部の草原で活躍したトルコ系の遊牧民で、モンゴル高原東部の柔然および中央アジアの上記Aとともに、中央ユーラシアを三分したが、6世紀にいたって両者の挟撃にあつて衰微した。

E このトルコ系遊牧民は、分裂した上記Cの一方の支配下にあつたが、その支配を脱して7世紀にバルカン半島に建国した。やがてギリシア正教に改宗した後に11世紀にビザンツ帝国に併合された。12世紀末に帝国を復興し、帝国は13世紀に最盛期を迎えたが、14世紀末にオスマン帝国の支配下に入った。

F 8世紀から9世紀にかけてモンゴル高原を支配したトルコ系の遊牧民で、8世紀半ばに上記Cを破つて建国し、唐の要請で安史の乱の鎮圧に協力して勢力を拡大した。8世紀末からの内紛によって弱体化し、9世紀半ばに同じトルコ系遊牧民の（ 2 ）に攻められ解体したが、一部は甘肅^{かんしゅう}に移住して別の国を建てた。

問1 A ～ F の遊牧民の名前を答えよ。

問2 文中の空欄（ 1 ）、（ 2 ）にあてはまる人名または語句を答えよ。

問3 5世紀半ばにパンノニアに大帝国を築いて B の遊牧民を最盛期に導いた王は誰か、答えよ。

問4 F の遊牧民が奉じた宗教で、ペルシアに起源をもち、善悪二元の原理によって世界を説明する宗教の名前を答えよ。

2 次のイスラーム世界に関する3つの文章を読み、下の設問に答えよ。

- 1 9世紀後半に、イラン系のイスラーム国家（ 1 ）朝が西トルキスタンに建国され、首都がブハラに定められた。この政権ではトルコ人のイスラームへの改宗が進められた。こうしたトルコ人のイスラーム化は、トルコ系イスラーム王朝である（ 2 ）朝が（ 1 ）朝を滅ぼしたことで、さらに進展した。
- 2 西北イランに成立した（ 3 ）朝の君主は、946年、バグダードに入城し、アッバース朝カリフの権威は認めたまま、（ 4 ）に任じられ、政治の実権をにぎった。（ 3 ）朝は、軍人に対し給与のかわりに一定地域の徴税権を与える（ 5 ）制を導入した。
- 3 インドではさまざまな勢力が割拠していた。10世紀半ばにアフガニスタンで、（ 1 ）朝のトルコ系マムルークが（ 6 ）朝を建て、インドへの侵略や略奪をくり返した。12世紀中頃から、（ 6 ）朝に代わって成立したゴール朝もインドに進出し、その一部を支配しはじめた。こうして13世紀初めにゴール朝の将軍がインドで最初のイスラーム王朝を創設し、その首都は（ 7 ）におかれた。

問1 文中の空欄（ 1 ）～（ 7 ）にあてはまる語句を答えよ。

問2 下線部(a)に関連して、751年、アッバース朝がタラス河畔の戦いで破った軍はどの王朝の軍か。次のア～エから1つ選び、記号で答えよ。

ア. 隋 イ. 唐 ウ. 宋 エ. 陳

問3 下線部(b)に関連して、1206年、インドで最初のイスラーム王朝を創始したゴール朝の将軍は誰か、答えよ。また、その王朝は何と呼ばれたか、漢字4文字で答えよ。

次の文章を読み、下の設問に答えよ。

1603年にエリザベス1世が没すると、ジェームズ1世が国王となり、(1) 朝を開いた。ジェームズ1世は、王権は神から授かったもので、神聖不可侵であるという(2) 説を唱えて専制政治を行い、議회를軽視し、国教会と結びつきを強め、ピューリタンを圧迫した。次の国王チャールズ1世も専制政治を続けたので、議会は、1628年に(3) を提出した。しかし、チャールズ1世は、一度これを受け入れたものの、後に議회를解散した。

チャールズ1世は、国教会強制に反発した(4) が反乱を起こすと、1640年に戦費調達のため議を開いたが、議会在国王の強権的な政治を非難し、国王は武力で議会を抑えようとしたことから、1642年に(①) 派と(②) 派の間で内乱が始まった。初めは(①) 派が優勢であった。(②) 派の中では、早期和平を唱える(③) 派と、徹底抗戦を主張する(④) 派に分かれた。(④) 派のクロムウェルは、彼の率いたピューリタンからなる通称(5) 隊という部隊を中核に(②) 派の軍隊を編成して、(①) 派を破った。ついでクロムウェルは急進的な(⑤) 派と結んで議会から(③) 派を追放して、1649年に国王を斬首刑で処刑し、(6) 政を樹立した。これをピューリタン革命という。

その後、クロムウェルは、中産階級やジェントリの利益を守る立場から急進的な(⑤) 派を弾圧した。この間に政府は、オランダの中継貿易に打撃を与えるため、1651年に(7) 法を定め、さらにオランダと戦った(第一次イギリス=オランダ戦争)。クロムウェルは、内外の難局に対処するため、1653年に(8) となって軍事独裁を強めた。そのため、彼の死後、国民の不安や不満が高まり、1660年に(③) 派が中心となって、フランスにいた先王の子チャールズ2世を国王に迎えた。

議会は、国教を中心に政治を進めようとしたが、チャールズ2世は親カトリック政策をとった。そのため、議会は1673年に(9) 法を定めて非国教徒が公職に就くことを禁止したり、1679年には不当な逮捕や投獄を禁止する法律を制定したりした。その頃議会では、王権と国教会を擁護するトーリ党と、議会の権利を主張するホイッグ党が誕生した。^(a) 次の国王ジェームズ2世もカトリックの復活をはかると、1688年両党は協力して、王の娘メアリとその夫オランダ総督オラニエ公ウィレムに援助を求めた。ウィレムが軍を率いてイギリスに上陸すると、ジェームズ2世はフランスに亡命した。これを名誉革命という。

1689年ウィレム夫妻は、議会が提出した権利宣言を承認して、ともに王位についた(ウィリアム3世とメアリ2世)。議会は後に、権利宣言を若干補足し、権利章典^(b)として制定した。ウィリアム3世の死後、メアリ2世の妹アンが即位し、1707年に(4) を合併して(10) 王国が成立した。アンが死去して(1) 朝が途絶えると、ジェームズ1世の血を引くドイツのハノーヴァー選帝侯がジョージ1世として迎えられ、ハノーヴァー朝を開いた。1721年に最初の首相となったホイッグ党のウォルポールの下で、内閣が国王ではなく議会对して責任を負う制度が形成された。^(c)

問1 文中の空欄 (1) ~ (10) にあてはまる語句を答えよ。

問2 文中の空欄 (①) ~ (⑤) に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、次のア ~ エ から1つ選び、記号で答えよ。

ア. (①) 議会 (②) 長老 (③) 王党 (④) 水平 (⑤) 独立

イ. (①) 議会 (②) 王党 (③) 水平 (④) 長老 (⑤) 独立

ウ. (①) 王党 (②) 長老 (③) 水平 (④) 独立 (⑤) 議会

エ. (①) 王党 (②) 議会 (③) 長老 (④) 独立 (⑤) 水平

問3 下線部 (a) に関連して、両党は、19世紀のイギリスの二大政党のもとになった。その二大政党の政党名をそれぞれ答えよ。

問4 下線部 (b) に関連して、その内容として誤っているものを、次のア ~ エ から1つ選び、記号で答えよ。

ア. 国会における言論の自由および討議または議事手続きは、国会以外のいかなる裁判所またはその他の場所においても、これを非難したり問題としたりしてはならない。

イ. 国王は、王権により、国会の承認なしに法律を停止しまた法律の執行を停止する権限があると称しているが、そのようなことは違法である。

ウ. 平時において、国会の承認なくして国内で常備軍を徴集してこれを維持することは、違法とはならない。

エ. 国王に請願することは臣民の権利であり、このような請願をしたことを理由とする収監または訴追は、違法である。

問5 下線部 (c) に関連して、この制度によるイギリスの政治状況を象徴する言葉は何か、漢字と平仮名を使って10文字で答えよ。

次の文章を読み、下の設問に答えよ。

第一次世界大戦開戦以来、ロシア軍は敗北を重ね、皇帝・政府が十分な対策を取らなかったため、国民の間では戦争継続に反対する声が広がり、1917年3月8日、首都（ 1 ）でパンと平和を求める民衆の大規模なデモやストライキが起こると、軍隊も加わってたちまち各地に広がり、労働者・兵士はソヴィエト（評議会）を組織して、革命を推進した。皇帝ニコライ2世は退位し、（ 2 ）朝は消滅した。ドゥーマ（国会）の自由主義諸党派の議員は、社会革命党などの支持を受け、臨時政府を樹立した。これがロシア二月革命（三月革命）である。

臨時政府は、普通選挙による議会招集を決めたが、戦争を継続した。一方、ソヴィエトがなお存続したため、不安定な二重権力状態が続いた。この間に、フィンランドや（ 3 ）などでは民族革命が進行した。1917年4月、ボリシェヴィキの指導者レーニンが亡命先の国（ 4 ）から帰国して、革命をさらに進める方針（四月テーゼ）を示し、ソヴィエト内でボリシェヴィキの勢力拡大に努めて、7月に新たに首相になった（ 5 ）と対立した。11月7日、レーニン、トロツキーらは、武装蜂起を指揮して政府を倒し、権力を握った。翌日、全ロシアソヴィエト会議で新政権成立が宣言され、「平和に関する布告」などが採択された。これが十月革命（十一月革命）である。

ソヴィエト政権は、1918年3月、不利な条件でドイツ側と（ 6 ）条約を結んだ。国内では、ソヴィエトを基盤とする体制に移行し、社会主義を目指す方針を明らかにした。ボリシェヴィキは共産党と改称され、首都は（ 7 ）に移された。

レーニンは、ロシアで社会主義を成功させるには先進資本主義国での革命（世界革命）が不可欠と考え、1919年3月、（ 7 ）でコミンテルン（共産主義インターナショナル、第3インターナショナル）を創設して、世界革命推進を目指したが、ほとんど失敗に終わった。

革命後、各地に反革命政権が樹立された。革命の拡大を恐れる連合軍もこれらの政権を援助し、さらに直接ロシア各地に軍を派遣して（ 8 ）戦争を始めた。ソヴィエト政府は赤軍を組織し、チェカ（非常委員会）を設置して反革命運動を取り締まる一方、深刻な食料状況を解決するために、農民から穀物を強制的に徴発して、都市住民や兵士に配給する戦時共産主義を実施した。

しかし、戦時共産主義の実施は、農業や工業の生産の混乱や低下をもたらすなど、深刻な事態を招いたため、レーニンは、穀物徴発をやめて、農民に余剰生産物の自由販売を認め、中小企業の私的営業も認めた。この政策の転換は、（ 9 ）と呼ばれ、一定の範囲で資本主義的な営業や市場経済を復活させて生産活動を促した。1922年12月、シベリアから（ 10 ）軍が撤退した後、ロシア・（ 3 ）・ベラルーシ・ザカフカースの4ソヴィエト共和国は連合してソヴィエト社会主義共和国連邦（ソ連邦、ソ連）を結成し、1924年1月には新憲法が公布された。

問1 文中の空欄（ 1 ）～（ 10 ）にあてはまる人名または語句を答えよ。

問2 下線部(a)に関連して、連合側国として誤っているものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えよ。

ア. フランス イ. オーストリア ウ. セルビア エ. イギリス

問3 下線部(b)に関連して、ニコライ2世の在位の間起きた出来事として誤っているものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えよ。

ア. 血の日曜日事件 イ. ミール解体 ウ. 三国干渉 エ. 国際連盟成立

問4 下線部(c)に関連して、その内容として誤っているものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えよ。

ア. 民族自決 イ. 無償金 ウ. 全地主地無償没収 エ. 無併合

問5 下線部(d)に関連して、ドイツでは、スパルタクス団が蜂起したが、その女性指導者は誰か、答えよ。
また、中国では、中国共産党が結成されたが、その初代委員長は誰か、答えよ。